

## 再 評 価 調 書

I 事業概要					
事業名	農業農村整備事業(用排水施設整備事業)				
地区名	いるかかみようすい 入鹿上用水地区				
事業箇所	いぬやましいけのあずくし 犬山市池野安楽寺他				
事業の あらまし	<p>本地区は、犬山市の中央部に位置し、一級河川新郷瀬川<small>しんこうせがわ</small>と県道 188 号に挟まれた流域面積 99.9ha の農業地域である。</p> <p>本地区の排水路は、1957 年度から 1961 年度にかけて愛知用水事業において建設された用排兼用の開水路である。現在は、用排分離がなされ、主に排水路として使用されているが、供用開始から 60 年以上が経過し、老朽化による機能低下や近年の都市化の進展による降雨流出量の増加によって、排水状況は著しく悪化しており、周辺農地等に湛水被害が頻発している。</p> <p>このため、排水路の改修及び放水路の新設を行い、湛水被害を未然に防止することで、農業経営の安定と県民生活の安全・安心を図ることを目的として、2020 年度から用排水施設整備事業を実施し、2030 年度に完了する予定である。</p>				
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>排水路の改修及び放水路の新設を行い、農用地や人家等の湛水被害を防止する。 (基準雨量 181mm/日、1/10年確率雨量)</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>				
計画変更の 推移		事前評価時 (2019 年度)	再評価時 (2025 年度)	変動要因の分析	
	事業期間	2020～2027	2020～2030	詳細調査結果による事業期間の延長	
	事業費(億円)	18.1	23.8		
	経費 内訳	工事費	16.8	21.8	詳細調査の結果、新たに用地取得が必要になったことによる調査費及び測量費の増 資材価格や労務費の増(2019年単価→2025年 単価)
		用補費	0.1	0.5	詳細調査の結果、新たに用地取得が必要になったことによる用地費及び補償費の増
その他		1.2	1.5	労務費の増(2019年単価→2025年単価)	
事業内容	排水路 3.7km 放水路 1箇所	排水路 3.7km 放水路 1箇所			
II 評価					
①事業の 必要性の 変化	1) 必要性の 変化	<p>【事前評価時の状況】</p> <p>老朽化による機能低下や地区内開発による降雨流出量の増加によって、排水状況が悪化し、湛水被害が発生していることから、早急に排水路の改修及び放水路の新設を行い、排水能力を向上させる必要がある。</p> <p>【再評価時の状況】</p> <p>計画施設は地区内の湛水被害を防止するための基幹的な排水施設であり、排水能力不足は変わっておらず、事業が必要な状況は継続している。</p> <p>【変動要因の分析】</p> <p>地区内の排水能力不足は解消されておらず、事業の必要性は依然として高い。</p>			

	判定	<p><b>B</b></p> <p>A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。          B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。          C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p>																																																																																																																																																														
		<p>【理由】</p> <p>地区内の排水能力不足は解消されておらず、早急に施設の改修が必要な状況は継続しているため。</p>																																																																																																																																																														
②事業の進捗状況及び見込み	1) 進捗状況	<p>【事業計画及び実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> <th>2024</th> <th>2025</th> <th>2026</th> <th>2027</th> <th>2028</th> <th>2029</th> <th>2030</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">工種区分</td> <td>調査・設計</td> <td>←</td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>用地補償</td> <td></td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>工事</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・排水路工</td> <td></td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>・放水路工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>←</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">事業費(億円)</td> <td>当初計画①</td> <td colspan="3">10.4</td> <td colspan="3">7.7</td> <td colspan="4"></td> <td>18.1</td> </tr> <tr> <td>実績②</td> <td colspan="3">3.5</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="4"></td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>今回計画③</td> <td colspan="3">3.5</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3">15.8</td> <td>4.5</td> <td>23.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>【進捗率】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">これまでの計画に対する達成状況</th> <th colspan="2">全体進捗率</th> </tr> <tr> <th>計画【①】</th> <th>実績【②】</th> <th>達成率(%)【②÷①】</th> <th>計画【③】</th> <th>達成率【②÷③】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長(km)</td> <td>2.5</td> <td>0.4</td> <td>16%</td> <td>3.7</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>事業費(億円)</td> <td>10.4</td> <td>3.5</td> <td>34%</td> <td>23.8</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>  工事費</td> <td>9.6</td> <td>3.3</td> <td>34%</td> <td>21.8</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>  用補費</td> <td>0.1</td> <td>0.1</td> <td>100%</td> <td>0.5</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>  その他</td> <td>0.7</td> <td>0.1</td> <td>14%</td> <td>1.5</td> <td>7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【施工済みの内容】 排水路 0.4km、放水路 1箇所</p> <p>【事業評価に準ずるフォローアップ】 該当なし。</p>			2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	合計	工種区分	調査・設計	←											→	用地補償			←									→	工事													・排水路工			↔			←						→	・放水路工				←	→								事業費(億円)	当初計画①	10.4			7.7							18.1	実績②	3.5										3.5	今回計画③	3.5						15.8			4.5	23.8		これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率		計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	計画【③】	達成率【②÷③】	延長(km)	2.5	0.4	16%	3.7	11%	事業費(億円)	10.4	3.5	34%	23.8	15%	工事費	9.6	3.3	34%	21.8	15%	用補費	0.1	0.1	100%	0.5	20%	その他	0.7	0.1	14%	1.5	7%
			2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	合計																																																																																																																																																		
	工種区分	調査・設計	←											→																																																																																																																																																		
		用地補償			←									→																																																																																																																																																		
		工事																																																																																																																																																														
		・排水路工			↔			←						→																																																																																																																																																		
		・放水路工				←	→																																																																																																																																																									
	事業費(億円)	当初計画①	10.4			7.7							18.1																																																																																																																																																			
		実績②	3.5										3.5																																																																																																																																																			
		今回計画③	3.5						15.8			4.5	23.8																																																																																																																																																			
	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率																																																																																																																																																												
	計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	計画【③】	達成率【②÷③】																																																																																																																																																											
延長(km)	2.5	0.4	16%	3.7	11%																																																																																																																																																											
事業費(億円)	10.4	3.5	34%	23.8	15%																																																																																																																																																											
工事費	9.6	3.3	34%	21.8	15%																																																																																																																																																											
用補費	0.1	0.1	100%	0.5	20%																																																																																																																																																											
その他	0.7	0.1	14%	1.5	7%																																																																																																																																																											
2) 未着手又は長期化の理由	<p>詳細調査の結果、末端の既設放水路の能力不足が判明し、新設する放水路の規模及び位置を変更する必要が生じた。そのため、関係機関協議、調査・設計及び用地買収に時間を要し、事業期間の延長が必要となった。</p>																																																																																																																																																															
3) 今後の事業進捗の見込み	<p>【阻害要因】 なし。</p> <p>【今後の見込み】 事業期間を延長したため、今後、予算確保及び関係機関との調整に努めながら事業の進捗を図り、予定工期内の完了を目指す。</p>																																																																																																																																																															
判定	<p><b>B</b></p> <p>A： 事業は順調であり、計画通り確実な完成が見込まれる。          B： 次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> <li>○これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> </ul>																																																																																																																																																															

		<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> </ul> <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>																																																																			
	【理由】	事業期間を延長したことにより、計画どおりの完成が見込まれるため。																																																																			
③事業の効果の変化	1) 貨幣価値化可能な効果（費用対効果分析結果）の変化	<p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析の算定基礎となった要因変化の有無】</p> <p>事業費の増。</p> <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析結果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>事前評価時 (基準年 2019)</th> <th>再評価時 (基準年 2025)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">費用 (億円)</td> <td>当該事業による費用</td> <td>13.5</td> <td>20.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他費用 注)</td> <td>0.2</td> <td>0.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 (C)</td> <td>13.7</td> <td>20.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="7">効果 (億円)</td> <td>作物生産効果</td> <td>1.4</td> <td>2.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費節減効果</td> <td>△0.8</td> <td>△1.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>災害防止効果（農業関係資産）</td> <td>2.0</td> <td>2.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>災害防止効果（一般資産）</td> <td>215.4</td> <td>451.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>災害防止効果（公共資産）</td> <td>1.3</td> <td>1.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国産農産物安定供給効果</td> <td>0.2</td> <td>0.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 (B)</td> <td>219.5</td> <td>456.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(参考)</td> <td>流域面積 (ha)</td> <td>99.9</td> <td>99.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>算定</td> <td>農地面積 (ha)</td> <td>26.8</td> <td>26.8</td> <td>変動なし</td> </tr> <tr> <td>要因</td> <td>宅地等面積 (ha)</td> <td>73.1</td> <td>73.1</td> <td>変動なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用対効果分析結果 (B/C)</td> <td>16.0</td> <td>22.5</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額は、社会的割引率（4%）を用いて現在の価値に換算したもの。  ※評価期間：51年間（当該事業の工事期間11年+40年）  注）その他費用の内訳</p> <p>①当該施設 再整備費＋事業着工時点の資産価格－評価期間終了時点の資産価格</p> <p>②当該施設と一体的に効用を発揮する関連施設 関連事業費＋再整備費＋事業着工時点の資産価格－評価期間終了時点の資産価格</p> <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析手法】  「新たな土地改良の効果算定マニュアル」（2015年9月 農林水産省農村振興局整備部監修）に基づき算定。</p> <p>【変動要因の分析】  主な変動要因として、災害防止効果の算定方法が改訂され、床上浸水等の被害額が従来よりも大きく見積もられるようになり、災害防止効果が増加した。</p>	区分		事前評価時 (基準年 2019)	再評価時 (基準年 2025)	備考	費用 (億円)	当該事業による費用	13.5	20.1		その他費用 注)	0.2	0.2		合計 (C)	13.7	20.3		効果 (億円)	作物生産効果	1.4	2.4		維持管理費節減効果	△0.8	△1.2		災害防止効果（農業関係資産）	2.0	2.5		災害防止効果（一般資産）	215.4	451.1		災害防止効果（公共資産）	1.3	1.6		国産農産物安定供給効果	0.2	0.3		合計 (B)	219.5	456.7		(参考)	流域面積 (ha)	99.9	99.9		算定	農地面積 (ha)	26.8	26.8	変動なし	要因	宅地等面積 (ha)	73.1	73.1	変動なし	費用対効果分析結果 (B/C)		16.0	22.5	
	区分		事前評価時 (基準年 2019)	再評価時 (基準年 2025)	備考																																																																
	費用 (億円)	当該事業による費用	13.5	20.1																																																																	
		その他費用 注)	0.2	0.2																																																																	
		合計 (C)	13.7	20.3																																																																	
	効果 (億円)	作物生産効果	1.4	2.4																																																																	
		維持管理費節減効果	△0.8	△1.2																																																																	
		災害防止効果（農業関係資産）	2.0	2.5																																																																	
		災害防止効果（一般資産）	215.4	451.1																																																																	
		災害防止効果（公共資産）	1.3	1.6																																																																	
		国産農産物安定供給効果	0.2	0.3																																																																	
		合計 (B)	219.5	456.7																																																																	
(参考)	流域面積 (ha)	99.9	99.9																																																																		
算定	農地面積 (ha)	26.8	26.8	変動なし																																																																	
要因	宅地等面積 (ha)	73.1	73.1	変動なし																																																																	
費用対効果分析結果 (B/C)		16.0	22.5																																																																		

	2) 貨幣価値 化困難な 効果の変 化	<b>【事業採択時の状況】</b> 該当なし。 <b>【再評価時の状況】</b> 該当なし。 <b>【変動要因の分析】</b> 該当なし。	
	判定	A	A：事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。 B：事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。 C：事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。
		<b>【理由】</b> 前回評価時（2019年度）から引き続き $B/C \geq 1.0$ となっているため。	
<b>Ⅲ 対応方針（案）</b>			
<b>継続</b>	中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。		
<b>Ⅳ 事後評価実施の有無と主な評価内容</b>			
<b>■対象（事業完了後5年目）</b> <input type="checkbox"/> 対象外 <b>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</b> — <b>【主な評価内容】</b> 事業後の湛水被害の有無を確認 ※事業完了後5年以内に計画規模と同等の降雨が発生した場合、その降雨により評価する。ただし、事業完了後5年以内に計画規模と同等の降雨が発生しなかった場合は、事業完了後5年間の最大規模の降雨により評価する。			
<b>Ⅴ 事業評価監視委員会の意見</b>			
入鹿上用水地区の対応方針（案）[事業継続]を了承する。			
<b>Ⅵ 対応方針</b>			
事業継続			